

令5和年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 みのりの丘	代表者	武市 寿人	法人・ 事業所 の特徴	「みのりの丘」は東町ニュープラザ商店街の中に位置しており、地域の皆さまが気軽に立ち寄れる環境です。人と人とのつながりを大切に、高齢者が住みよい福祉のまちづくりに貢献することを目指しております。その中で、小規模多機能ホームみのりの丘ではご利用される方の「こだわり」を大事にし、自分らしい当たり前の生活が実現できるように持っている力を最大限に活かし、清潔で季節感のある環境の中で、いつも笑顔で丁寧にお手伝いさせていただくことを理念として取り組んでおります。
事業所名	小規模多機能ホーム みのりの丘	管理者	早見 有香		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	0人	0人	1人	1人	2人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価について「分からない」「行っていない」のチェックが減るように、自分たちが立てた計画を半年ごとに見返し、計画したことを意識して日々のケアに当たる。	「分からない」「行っていない」のチェックが減っている。半年ごとに計画を見返して取り組んだが、見返した直後は意識ができていたが、数か月経つと忘れてしまっており、職員それぞれが評価した時にできていなかったことに気づいていることが多かった。	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での話し合いの場を確保して、対応方法に工夫しながら共有している部分を感じられます。 新規の利用者への配慮（思いやり）、家族とのコミュニケーションから得る利用者に関する情報がより良いケアにつながるという視点であることを感じました。 事業所内での振り返りから、できていない点を踏まえ、解決に向けて具体的な計画を立てられている。 	計画を半年ごとに振り返るだけでは忘れてしまうため、普段いつも目にする申し送りファイルに改善計画をまとめたものをつけておき、日々見返して日々の支援にあたるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> これまで行ってきた清掃・消毒方法について、感染対策委員会にも確認しながら振り返り、現状に合った方法について見直しを行う。 普段の清掃に加え、年に1度分担して大掃除を行う。 リネン交換や冷蔵庫の清掃など、チェック表を活用しながら漏れなく行い、食中毒や感染対策に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団感染はなかったものの、他部署で感染者が発生したことから、これまでの清掃・消毒方法は変更せず現行のまま行ってきた。 年末に役割分担をして大掃除行えた。 チェック表に漏れていることはあったが、概ね清掃は滞りなく行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ウィズコロナ」における集団感染防止対策の徹底をお願いします。 換気による室温の影響がないか、不快でないか留意した方が良いでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団感染が起らないよう普段の清掃を行うとともに、感染が起きた際の対応の研修を実施する。 事業所が居心地の良い空間と感じていただけるよう、室内でも季節を感じてもらえるような装飾や壁画を一緒に製作し飾って、楽しんでいただく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から再開した自主事業を通して、事業所の活動を知っていただく。 夏祭りの開催を予定しており、利用者の参加を通じて事業所の存在を知ってもらうようにする。 利用者への支援の際に、ご近所さんや友人、知人等の関わりを深め、コミュニケーションが取りやすい事業所を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主事業再開したが、参加者に事業所の活動を知ってもらう機会を作れなかった。 夏祭りは全利用者に参加有無を聞き取り、希望者全員参加できるようにした。 利用者が関わる地域の方とは、特に新規利用者については関係性を聞き取り、支援の際に関わるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 大麻在住者には町内回覧板でも自主事業の案内が回っており、伝わっていたと思う。自主事業そのものは体験参加することでご理解いただけるが、その方々に周辺の法人としての取り組みや介護サービス等（利用者）につながるか否かの難しさを感じる。 地域の方とのつながりや関わりが持てて、良い関係作りができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度からはコロナ禍で中止していた世代間交流ができるよう、隣のジュニアクラブや大麻東小、近隣の保育園に働きかけて、計画的に交流の機会を持てるようにする。 3月に太鼓の鑑賞や作品展に行くことができたことから、今年度も地域のイベントに積極的に参加できるようにする。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	事業所自己評価の「6. 連携・協働」にも掲げているが、今年度より自主事業の再開も検討しており、以前も誕生会イベントの参加も呼び掛けていたことから、参加の声かけを検討する。天気の良い日に商店街を散策したり、外で遊んでいる学童の子供たちを見に行くなど、こちらから地域に出向き、地域の方々にもみよりの丘を知ってもらおう。	誕生会イベントに外部ボランティア等をまだ呼んでおらず、自主事業参加者に声かけを行うことができなかった。天気の良い日に近隣の散策に出かけることはできた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で自粛していた交流（連携・協働）について引き続き対策を講じながらも少しずつ再開されているのだと感じました。 ・管理者・ケアマネが意識して、営業・訪問・モニタリングに出る際に利用者・家族とのコミュニケーションや考察を経て、事業所以外のものと組み立てていく中で、本人の豊かな暮らしを支えることができるものと思います。それが事業所内外で共有されると形になると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなイベントとなるとなかなか実現できないため、天候や利用者の状況を見ながら近隣への散策や、季節に合わせたお花見や外出など、外に出向くことを計画的に実施する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	7/19 合同運営推進会議の開催を控えており、状況が許せばその後2か月おきの会議開催を考えている。 以前と同様、運営推進会議では参加していただく方に事業報告を通じて当事業所の取組を理解していただく。 今後の会議開催については、感染状況を見て開催の可否を判断する。	7/19～運営推進会議を再開し、その後は予定通り会議を開催することができた。 利用者や利用者家族の会議参加がほとんどできておらず、事業報告ができていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前の状況に戻るのもまた少し時間がかかると思いますが、家族や地域の方の直の声を聞けるような会議を目指していきたいですね。 ・職員との情報共有を書面で行う際は、全員がきちんと見たのかどうかのチェックをすることで周知できると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の事業報告とともに、実際に利用されている方のケース紹介を通じて、事業所の内容を理解していただく。 ・職員体制により会議参加がかなわないため、直接意見を聞くことができていないが、管理者から報告をし、会議で出た意見を踏まえて業務改善できるようミーティングで話し合いの場をもうける。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議内で、事業所の防災計画について説明を行う。 ・今年度の防災訓練には、近隣住民や商店街の方にも周知し、可能な限り参加していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議内で、防災計画の説明ができていなかった。 ・運営推進会議後に避難訓練を行った。今回は2事業所合同で避難訓練を実施したが、連携不足がよく分かり、今後の課題が明確になり、反省を活かして今後も訓練を実施したいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街があるので連携がとても重要であり、また、とても大変だと思います。地域の方にもっと参加していただけるよう発信も大切です。 ・災害が起きた時はまず自分の安全を確保することを念頭に置いて欲しい。 ・被害を最小限に抑えるため、日頃からの備えが大事なので訓練を継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も運営会議後に避難訓練を実施し、会議参加者にも訓練の様子を見ていただく。 ・今年度より作成しているBCP（業務改善計画）に基づいた訓練を通じて作成したBCPの内容に欠陥がないか確認する。